
甘い花唇

菜月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

甘い花唇

【Nコード】

N7990A

【作者名】

菜月

【あらすじ】

シヨートシヨートをなので粗筋は勘弁。農業に関連する仕事をしていて農業ネタがないのは恥ずかしい、となんとかひねり出した一品です。惑星を巡回する養蜂業者の話です。

『甘い花唇』

私は花を求めて惑星から惑星を巡る養蜂業者である。

言わば蜂を飼ってその蜂の集めた蜂蜜を売る事を生業としている者である。

蜂蜜と言っても只の蜂蜜ではない。私の集めるのは、知性を持った植物、植物人間の咲かせた花の蜂蜜であり、その美味さは普通の蜂蜜ではない。知性を持つてゐる植物達が出すせいなのか何のせいなのか、比類のない美味さを誇つていて、不老の秘薬とか言われて、高価に取引されている。

尤も、その噂の大半はこれに目をつけた私が広めたものだが、実際結構な薬効もあるらしく万病に効くとか尾鰭もついて同じ重さの金より高価に取引されているので私の商売もなりたつてゐる訳だ。

まあ、この商売は商売で細かいノウハウがあつて惑星毎に咲く時期の異なる花の回り順とか、幾ら超空間航法で距離や時間にそれほど差がないとは言え、一番利潤が上がるコースを制定したり、と。この独占取引をまとめた私でなければ判らない苦労もある訳だ。独占商品という事で売り方優先取引ができるのがメリットだ。

私もこの王侯の中の王侯の味、インペリアル・ハイブリット・ロイヤル・ハニーを

愛用している薬効のお陰でこんな苦勞の多い仕事でも病氣一つ無しでやっている。

私が今回周った惑星の植物人間達も丁度この時期が百花繚乱・言わば交配の季節で植物人間達はその思いのたけをこめて咲かせる花は様々で目を奪われる。

なんとと言っても花は彼らの顔であり、生殖器であり、彼らの美しさのシンボルである。その美しさを進化の中で個性とともに発達させてきた訳だ。

そんなせいか彼らは性に対して非常におおらかで私が寄る時期が彼らの生殖の時期でもあるせいか私の蜂達が彼らの生殖を手伝う事もあるうが寄った私に対してもたいがいエロスの集いに来るように誘いがかかる。

尤も、エロスの集いと言っても小学校の性教育の雄薬と雌薬が…てもんだらうと私は行ったことはないが。

それでも今回はそそられてしまった。彼らの言葉は身振りと歯を振るわせて出る音の様な物と、感情情念の伝達・エンパシーのようなものか - の複合物である。

それでこんな女つ気のない生活を送っていれば誘惑にも弱くなるってmondakaらしい私が誘われてしまったとしてもしょうがないだろう。

何か新機軸で映像と彼らの言葉でエロスを表現する試みがあると言うのも面白そうだ。

そしてそれは始まった。映像は昔私がここに養蜂を行う事を紹介する為に置いて行ったビデオだった。「やっぱり小学校の性教育か…。雄薬と雌薬が…。」

しかし、それは彼らの言葉とともに私の心にしみ込んできた。
『…その固く熱い物が入ってきた時、そこはもう蜜を溢れ出していた。』

花唇を舐め回すようなその技巧にそこは濡れそぼり、大きく開いて蜜を与えた…』

それは延々と情熱的に煽情的に私を刺激して私も張り裂けんばかりになっていった。

しかし、花達の動きが一斉に私に向かってきた。な、なんだ…。

『吸って…、私の蜜を。奪って…、私の花粉を…』

彼らはその性の形として最後に彼ら以外の動物に蜜を与え、花粉を交配して貰うのが性行動だったのだ。

そして、ここには確かに私しか動物はいなかった。彼らは私に蜜を与え続け、私は

それから三日三晩下痢と腹痛に悩まされた。

それから私も私はなんとか養蜂を続けている。例えば、花の匂いを嗅いだだけで花粉症

と性的興奮をしようと、私の仕事はこれ以外に思いつかなかったから。

私は今日も花粉症予防の為、宇宙服を着たままで蜜を集めている。そして決して二度と彼らの性についてはこれ以上知りたいたく思わなかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7990a/>

甘い花唇

2010年10月12日15時51分発行